

幼児指導

担当 小川 哲也

ローカルルール

- 出席：2/3以上（10回以上）
出席率と成績は関係しない
遅刻と早退は合わせて3回で欠席1回とする
- テストは行わず、レポート
（ただし小テストはするかもしれない）
- 積極的な発言を期待します
- 表情豊かに

- 滑舌悪い、字が汚い m(_ _)m
理解不能ならどんどん質問を！
- 授業開始・終了の挨拶・・・

自己紹介

小川 哲也

- 本業

川崎ふたば幼稚園 園長

保育園も始めました。認可、0～5歳。

- 専門領域

(いちおう) 発達心理学、幼児教育心理学

- 好きな食べ物

ラーメン、パスタ、ピザ、たこ焼き

- 好きなもの

Appleオタク。Mac、iPhone、Apple Watch大好き

(新しいApple Watch買った！)

幼児教育・指導について

小川の考え方

サイト（トップページ）

[川崎ふたば幼稚園](#)

サイト（保育について）

[ふたばの保育 | 幼稚園について | 川崎ふたば幼稚園](#)

保護者向け説明（PDF）

[保護者向け説明](#)

[縮小版（1枚4ページ）](#)

幼稚園と保育園と認定こども園

	幼稚園	保育園	認定こども園
所管	文部科学省	厚生労働省	内閣府...
時間	4時間を基準	8時間以上	1号：4時間を基準 2,3号：8時間以上
入園資格	だれでも	保育を必要とする 家庭	認定による
ねらい	幼児教育	家庭の補完(養護) +教育	幼児教育 +保育
園選び	保護者主体	(今のところ) 行政主体	1号は保護者 2,3号は行政

今後の予定

1. なぜ主体性が大事なのか
2. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領
改訂のポイント
3. 幼児指導の事例研究

幼児指導を学ぶにあたって、みなさんへお願い

- 「典型的な子ども」なんていません。みんな違います。
- 「正しい保育・教育」なんてありません。子どもはみんな違うからです。
- だから、まず「幼児教育の”幹”(考え方)」から学びましょう。
そうすると自ずと”枝”(技術)が見えてきます。
幹のない枝は、落ちてしまいます。枯れてしまいます。
- 教育者を目指す人はたいてい「教えたがり」です。
子どもは「自分が思うような存在」であってほしいと思っています。
でも、子どもは自ら学ぶ存在です。子どもの個性、気持、成長発達に
寄り添い、サポートしていくのが保育者・教育者です。

主体性について

各要領には以下のように書かれています。

「幼児の教育は環境を通して行われる」

「幼児は主体的な遊びや生活を通して学ぶ」

「保育者は子どもの主体的な遊びや活動を援助する」

そりゃ、やらされるより主体的に遊んだり行動するほうがいいよねえ。

本当に？

主体性について

○ あなたは小学校～高校まで、主体的に勉強してきましたか？

もちろん主体的に学んだ事柄もあるでしょう。興味を持った事柄や趣味とか。でも、学校の授業の多くは「良い成績を取って褒められたい／何か買ってもらえる」とか、「悪い成績を取って叱られたくない／罰を与えられたくない」という理由で勉強していませんでしたか？

自分がそうだったのに、なぜ子どもたちには「主体的であれ」と言えるのでしょうか？

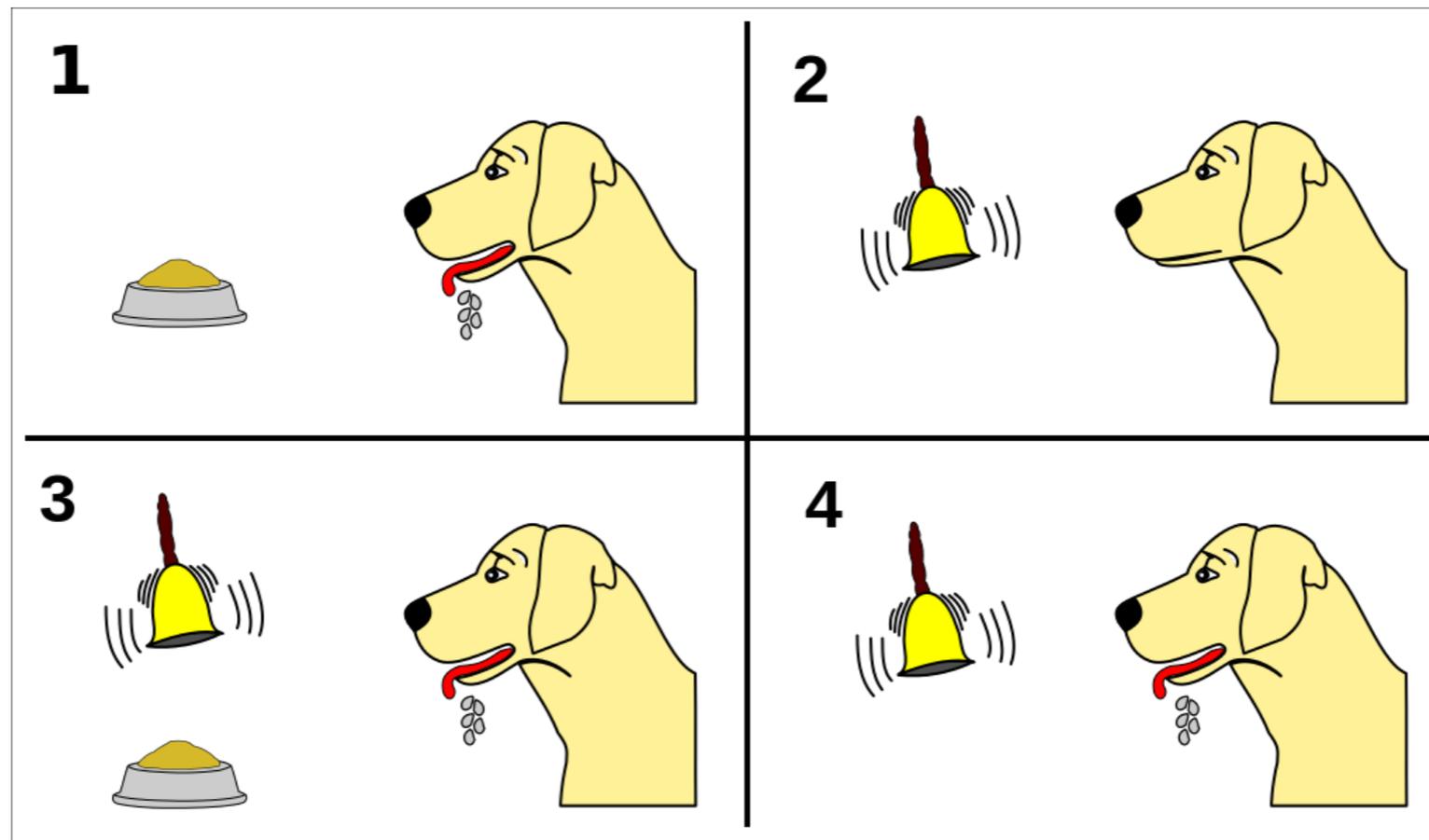
○ ソ連（ロシアになる前の共産主義国家）とアメリカの市民同士の討論

アメリカ市民「ソ連の市民はかわいそう。国が決めたことしかやってはいけなくて、国から言われた量しか生産してはいけない。努力して生産量を上げたら怒られる。主体性や自由がなくて楽しいの？」

ソ連市民「アメリカは自由に仕事をしたり生活できるけれど、その結果、誰かの足を引っ張ったり、自由に拳銃で殺し合ったり麻薬や覚醒剤を使う。それは素晴らしい生活なのか？」

主体性について

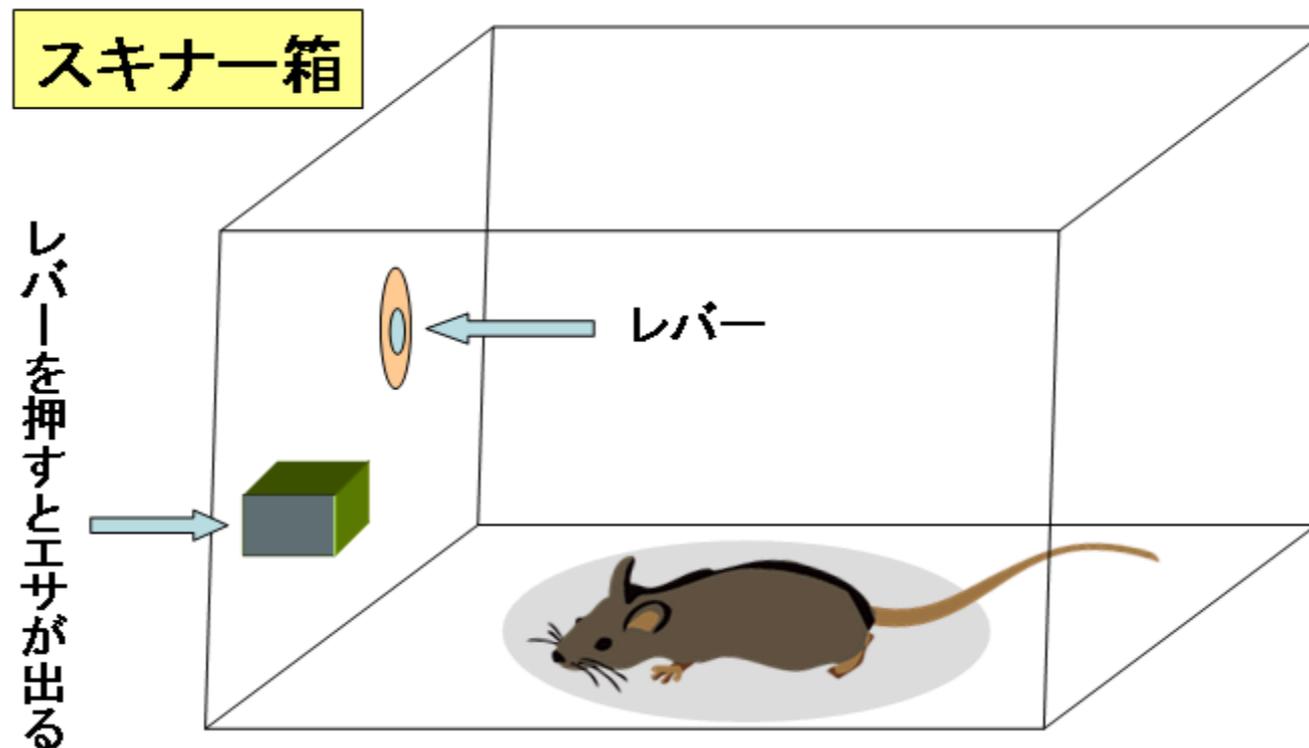
パブロフの古典的条件づけ



- 1 犬は餌を見るとよだれを流す
- 2 (ベルの音を聞いても反応しない)
- 3 餌と同時にベルを鳴らす→よだれを流す
- 4 3を繰り返すと、犬はベルの音だけでよだれを流す

主体性について

スキナーのオペラント条件づけ



1. ネズミはお腹がすくとウロウロする
2. たまたまレバーにぶつかる→エサが出る
3. これが繰り返されると、レバーを押すまでの時間が短くなる

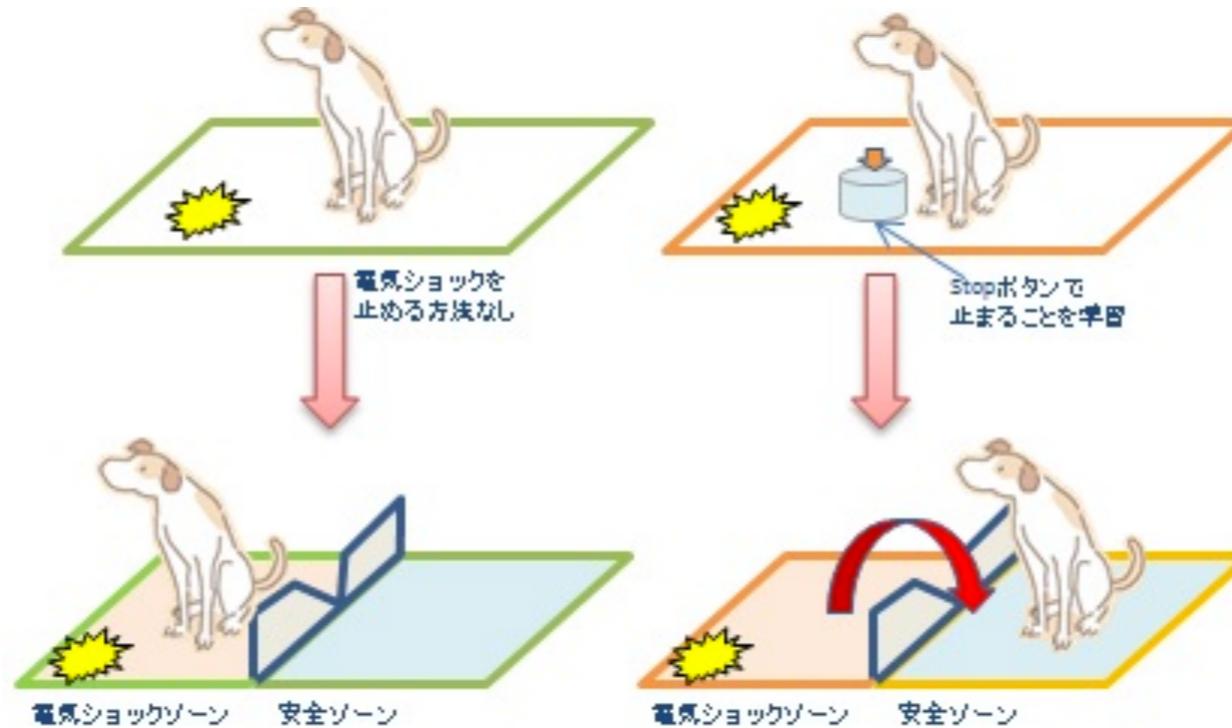
「これが学習だ！！」

ある反応に対してご褒美（報酬：この場合はエサ）を与えると、その行動が多くなる。＝「（正の）強化」。

罰を与えるとその行動が少なくなる＝「（負の）強化」。

主体性について

学習性無力感



1) 電気ショックを与えるパネルの上に、犬を置く。

【左上】は電気ショックを与え続ける→電気を止めるスイッチが無い→ショックを受け続けるしかない。

【右上】パネルに電気を止めるスイッチがある→電気ショックを止めることを学習させることが可能。

2) 次に、片側は電気ショックゾーン、もう片側は安全ゾーンの2枚のパネルを置いて、その間を仕切る。

3) 【右下】電気ショックを止める方法を学習していた犬は、安全ゾーンに移動する。

【左下】電気ショックを止めることができずにいた犬は、安全ゾーンには移動しようとせず、電気ショックを受け続けてしまった。

”自分はどうやってもできないんだ”という体験をしてしまうと、”自分はこれ以上勉強しても無駄だ”と感じてしまう。

この無力感は般化する（他の状況でも「何をやってもムダ」と思ってしまう）

こうならないためには「主体的な学習」→「自己肯定感」。

主体性について

ある4歳児の事例

幼稚園4歳児(女児)

絵を描くことが好き

描いた絵を先生に見せに行く



動物の絵らしいが、先生には何の動物かがわからない・・・
やむを得ず「じょうずね〜！」と褒める

(「褒めなさい」

と授業で習った！)

女児、嬉しそうに戻り・・・

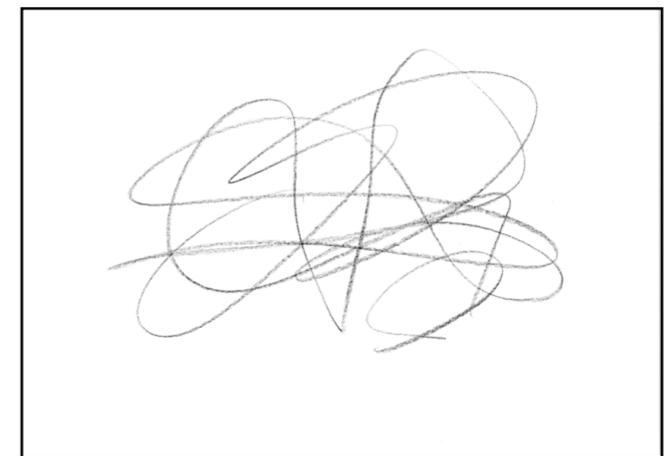
また絵を描き持ってくる



ますます何の絵だかわからない・・・
「じょうずね〜！」と褒める

これが繰り返され・・・

ついにはこんな絵に。



最初は絵を描くのが好きで描いていたのに、最後には先生に褒められるために絵を描くようになってしまった

主体性について

まとめ

- 行動主義心理学の「条件づけ」（報酬と罰／アメとムチ）による学習はとても効果的だし簡単
- でも、行動主義心理学は「行動が変化」すれば学習とみなす
「心」は関係ない
- だから、「やる気」とか「主体性」は無視される
- すると、「学習性無力感」が生まれたり、やりたいと思ってやっていたことも「報酬」を得る、「罰」を避けることが目的の行動となってしまう
- 自己肯定感も育たず、指示待ち人間になり非認知能力（あとで出てきます）も持つことができない

**幼稚園教育要領
保育所保育指針
認定こども園教育・保育要領
改訂のポイント**

1.非認知能力

2.資質、能力

3.幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

改訂のポイント

1. 非認知能力（1）

- ジェームズ・J・ヘックマン 『幼児教育の経済学』
ノーベル経済学賞受賞者。
 - 就学前教育はその後の人生に大きな影響を与える。収入、社会的地位、健康、幸福度・・・
 - 就学前で重要なのは、IQに代表される認知能力だけでなく、むしろ忍耐、協調性、計画力といった非認知能力が重要

- 将来、今ある職業のうち70%はなくなる
- 今の子どもたちの65%は、今は存在しない職業につく
- →認知能力だけの人は、職につけない可能性

改訂のポイント

1. 非認知能力（2） ～非認知能力ってなに？

○ 認知能力

数がわかる、字が書けるなど、IQなどで測れる力

○ 非認知能力

- 自己認識：自分に対する自信、やりぬく力
- 意欲：やる気がある
- 忍耐力：忍耐強い、粘り強い、根気がある、気概がある
- 自制心：意思が強い、精神力が強い、自制心がある
- メタ認知：自分の状況を把握する
- 社会的適性：リーダーシップがある、社会性がある
- 回復力と対処能力：すぐに立ち直る、うまく対応する
- 創造性：創造性に富む、工夫する
- 性格的な特性：神経質、外交的、好奇心が強い、協調性がある、誠実

改訂のポイント

1. 非認知能力 (3) 注意すべきこと！

○ 非認知能力は、他者と触れ合う経験によって育つ。
大人や先輩の行動や様子を見たり、
友だちと遊んだり意見を交わしたり喧嘩をしたり、
年下の子どもたちを世話したり気づかったり・・・

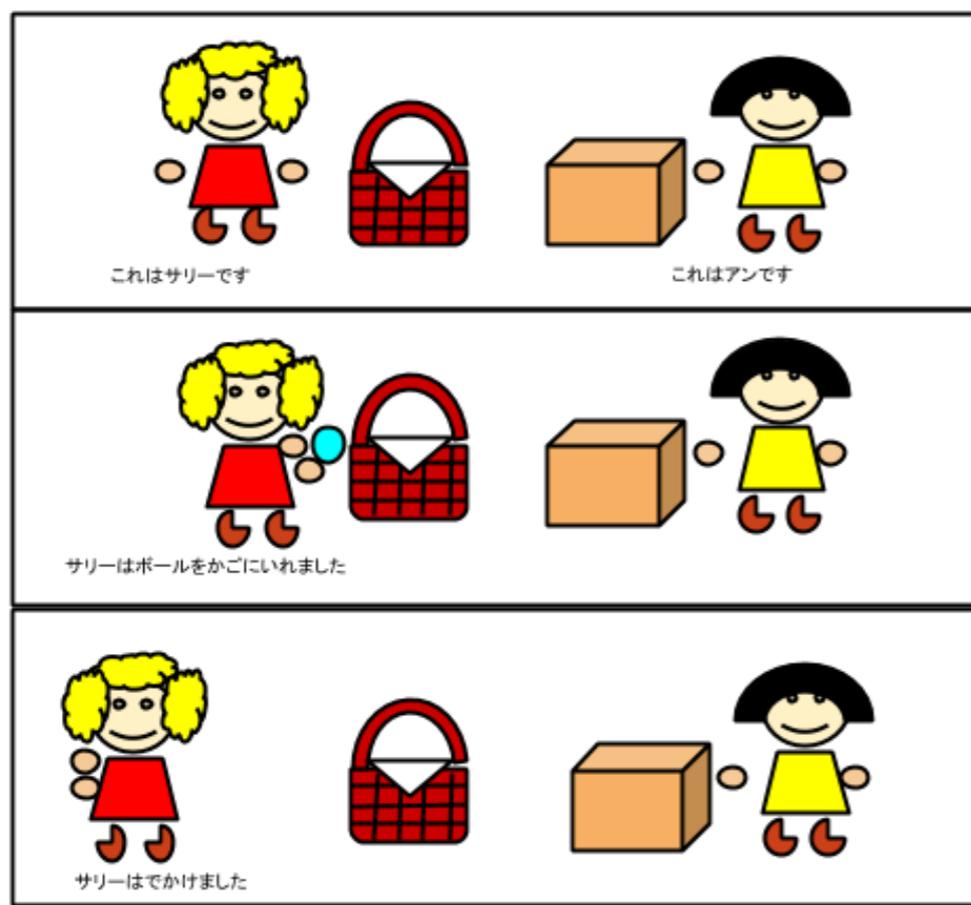
○ 発達段階によって非認知能力の様子は違う。
遊びや生活を通して、もちろん認知能力が育つ (ピアジェ)
認知能力の育ちによって、非認知能力が育っていく。

「心の理論」の発達も重要 (次ページ)

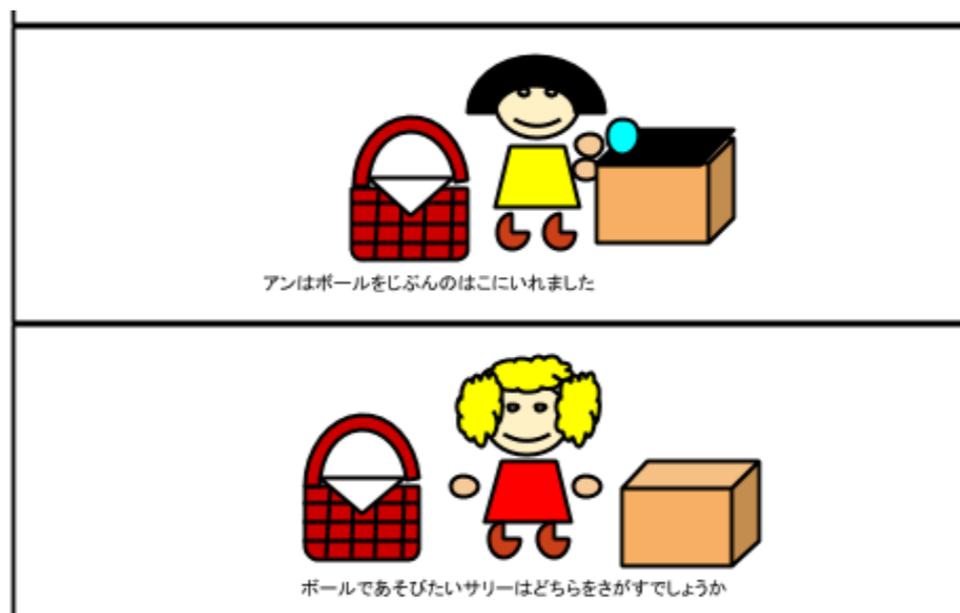
心の理論

他者の心の状態、目的、意図、知識、信念、志向、疑念、推測などを推測する心の機能

○ 誤信念課題 (サリーとアン)



4歳くらいになると正答できると言われている。
(ただし発達差が大きい)



次の学びの前に

- 「資質・能力」の3項目や「育ってほしい姿」の10項目は、独立したものではなく**遊びや生活の中で総合的に育つこと**
- 子どもの発達段階に応じて考える
たとえばスキンシップ、笑顔で抱っこ、優しい言葉かけ、食事の際の温かい雰囲気、励まし、アドバイス、一緒に考える姿勢、考えを促す態度・・・などが、資質・能力や10の姿につながっていくイメージがつくと思います。
- これらは達成度評価（点数で表すもの）ではなく「保育や育ちの方向」として保育者が大事にするもの

改訂のポイント

2. 育成すべき資質・能力（1）

文部科学省 教育課程部会・幼児教育部会 [資料4 資質・能力等関係資料（前半）より引用](#)

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/057/siryo/_icsFiles/afieldfile/2015/11/26/1364728_02_2.pdf

○ 個別の知識・技能

何を知っているか、何ができるか

個別の知識や技能などであり、身体的技能や芸術表現のための技能等も含む。基礎的・基本的な知識・技能を着実に獲得しながら、既存の知識・技能と関連付けたり組み合わせたりしていくことにより、知識・技能の定着を図るとともに、社会の様々な場面で活用できる知識・技能として体系化しながら身に付けていくことが重要

改訂のポイント

2. 育成すべき資質・能力 (2)

○ 思考力・判断力・表現力等

知っていること・できることをどう使うか

- 問題発見・解決に必要な情報を収集・蓄積するとともに、既存の知識に加え、必要となる新たな知識・技能を獲得し、知識・技能を適切に組み合わせ、それらを活用しながら問題を解決していくために必要となる思考。
- 必要な情報を選択し、解決の方向性や方法を比較・選択し、結論を決定していくために必要な判断や意思決定。
- 伝える相手や状況に応じた表現。

改訂のポイント

2. 育成すべき資質・能力 (3)

○ 学びに向かう力、人間性等

どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか

- 主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する能力、自らの思考のプロセス等を客観的に捉える力など、いわゆる「メタ認知」に関するもの。
- 多様性を尊重する態度と互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなど、人間性等に関するもの。

改訂のポイント

3. 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿（1）

項目名は各要領より 説明は無藤隆先生
武藤隆先生は各要領改訂の中心メンバー

①健康な心と体

心も体もしなやかに動くようにしていきます。それは生活や遊びの至る所で生じる動きを多様にしていくことによってです。しだいに何のためのその活動をするかの見通しが分かり、一々大人に言わずに自分が生活を作っていくようにします。

②自立心

したいことがはっきりとして、それをやっていこうとする。そうすると、そこで自分なりにやらなければならないことのイメージもはっきりとして、粘り強く取り組みながら、考え、工夫していきます。

改訂のポイント

3. 幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿 (2)

③協同性

園は集団の場です。といっても、一人の活動も数名の活動もクラスの活動も異年齢の交流もいろいろとあります。特に一緒にこういうことを実現したいねと気持ちが揃うと、協同が始まります。お互いの考えや思いを調整しながら、協力のやり方を学びます。

④道徳性・規範意識の芽生え

道徳性の芽生えは思いやりから始まります。相手の気持ちに共感し、してよいことと悪いことと結びつけていきます。友達同士の遊びでも世の中でも様々なルールがあり、公正なあり方のための必要性は遊びの中でルールを作る経験から分かっていきます。

改訂のポイント

3. 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿 (3)

⑤社会生活との関わり

園の外には家庭があり、地域の人々が暮らし、皆が使う公共施設があり、情報機器が使われます。それを園の中にいる子どもたちにも見せていきます。散歩の時に挨拶をするとか、公園を使うマナーとかです。情報には図鑑で調べることなども入ります。

⑥思考力の芽生え

何かを発見したり、作ろうとする中で、考え、試し、工夫することはつまり頭を使うことです。どうしてそうなるのだろうと仕組みを想像するようにもなります。特に友達と一緒に考え、多様な考えが出ることで理解が深まっていきます。

改訂のポイント

3. 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿 (4)

⑦自然と関わり・生命尊重

砂や土や水や風などの自然物と生命のある動植物の飼育栽培などを通して、自分の思うように勝手に作り替えられるものではない、独自の特徴を持った存在に気付き、そこに寄り添い大事にするようになります。愛情と不思議さの感覚が出発点となります。

⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

正確に読み書きしたり、計算したりすることを目指すのではなく、その前に、子どもの生活や遊びに出てくる数量や文字などにしてしみ、感覚が育つことが大事です。環境には標識や文字は至るところにあります。数量はトランプ遊びでも出てきて、厚みを数えます。

改訂のポイント

3. 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿 (5)

⑨言葉による伝え合い

言葉を豊かに広げていくことが大切です。それは言葉に出会い、その時、発音のみならず、その意味を場面などの文脈から感じ取るようにします。生活で大人と対話することや絵本に親しむこと、言葉遊びをすること、友達同士で話し合い発表するなどの場面が大切です。

⑩豊かな感性と表現

心動かす出来事に出会い、子どもの考え以前の感性が動き、育ちます。自然の音の美しさや積み木の感触や立てる音、クレヨンと水彩の違いなども感性として感じ取り、それを使って表現していくことが楽しくなり、表現活動へと発展していきます。